かながわの森と水

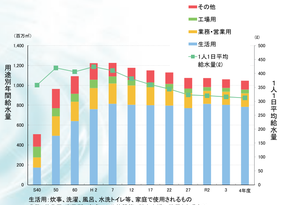
Q 私たちが飲んでいる水はどこの水？

A 県内の水道の約6割は相模川、約3割が酒匂川によってまかなわれているよ。相模川は山梨県から、酒匂川は静岡県からも流れてくるんだよ。

Q 水はどのように利用されているの？

A 神奈川県で使われる水の4分の3くらいは生活用水なの。だから生活排水の対策も大事なんだよ。

用途別年間給水量と1人1日当たり平均給水量の推移



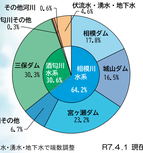
Q どうして水のために森が必要なの？

A 川は、森に降った雨水が集まってできるんだよ。だから森は水のふるさとなの。きれいな川の水が生まれるためには、元気な森が必要なんだよ。

Q 森と水を守るために、神奈川県ではどのようなことをやっているの？

A 神奈川県では、将来にわたり良質な水を安定的に県民の皆さんが利用できるようにするために、平成19年度から、森の手入れや水をきれいにするための特別な取組を計画的に進めているよ。

神奈川県内の上水道の水源保有構成比



※伏流水・湧水・地下水で補数調整　R7.4.1 現在

かながわの森と水を守る取組

森を「緑のダム」にするために

森には、「水を貯える」、「水をきれいにする」はたらきがあり、「緑のダム」と呼ばれているよ。大切なのは、これらのはたらきを十分に発揮できる元気な森にすることだよ。

戦後、人々が盛んにスギやヒノキなどの木を植え、人工林が作られました。そのうち林業が盛んでなくなり、多くの人工林が手入れ不足で荒れていきました。木が混みすぎて日光が入らず、地面に草も生えない人工林では、雨が降ってもしみ込まず、土とともに流れ出してしまいます。県では、荒れた人工林の手入れをして、元気な森林になるように整備をしています。

この森、大丈夫？

手入れ不足で荒れた人工林

人工林では

県ではこんな取組をしています！

手入れがされた健全な人工林

神奈川県では、丹沢山地などにシカが生息しており、主に草や木の葉を食べていますが、増え過ぎると森を手入れしてせっかく生えた草を食べつくし、木の皮をかじって枯らしてしまいます。このため、県では増えすぎたシカを捕獲する取組を進めています。その他にも、土が流れ出さないようにする対策や、ブナ林再生の取組などを行っています。

下草を食べるシカ

土壌流失

自然林では

ワイルドライフレンジャー※によるシカの管理捕獲

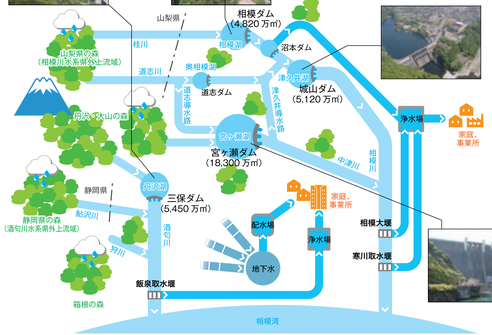
丸太柵などによる土壌流出の防止

※ワイルドライフレンジャー…野生動物の生態や捕獲等に関する専門知識、技術、技能を有する派遣職員

水は森からやってくる

～かながわの森と水の関係～

私たちが普段使っている水道の水の多くは、神奈川県の西側に広がる水源の森に降った雨水です。森が貯えた雨水は、少しずつ川に流れ込み、ダム湖に貯まります。ダムでは水量を調節しながら水を川に流し、下流にある取水堰で水を取り込み、各浄水場に送っています。そこから水道管を通って各家庭や会社・工場などに届きます。



自然豊かな河川にするために

この川、大丈夫？

（イメージ）

両岸がコンクリートで固められた川

コンクリートで固められた川は、石や土砂がないため生き物がすみにくく、水を浄化する機能が発揮されません。

県ではこんな取組をしています！

（イメージ）

自然の豊かさを取り戻した川

自然浄化機能が十分発揮され、様々な生き物がすめるよう、県では、市町村が行う自然豊かな水辺環境の整備や川の水質を改善する取組を支援しています。

良質な地下水を守るために

県ではこんな取組をしています！

田んぼに水を張って地下に浸透させる水田かん養

地下水を浄化する施設

地下水は、県の西部や中央部の地域において重要な水源です。しかし、アスファルト舗装の増加によって、雨水が地下に浸透する量が少なくなるなど、地下水の減少や水質の悪化などが心配されています。県では、市町村が行う雨水を地下に浸透させ、地下水の量を増やす地下水かん養の取組や地下水の水質保全の取組を支援しています。

生活から出る排水をきれいにするために

この湖、大丈夫？

ダム湖に流入する生活排水

生活排水に含まれる窒素やリンは、ダム湖を富栄養化させ、アオコの発生原因となります。

平成18年に発生したアオコ

アオコは、水中の植物プランクトンが大量発生し、水面が緑色になる現象です。そして、水道水のかび臭の原因となります。

県ではこんな取組をしています！

高度処理型合併処理浄化槽

ダム湖への生活排水の流入を防いで、ダム湖の水質を改善するため、県では、ダム湖周辺で市町村が行う公共下水道や窒素・リンを取り除く高機能な浄化槽の整備を支援しています。

相模川上流域の山梨県と共同して

県ではこんな取組をしています！

手入れされた桂川流域の人工林（山梨県）

桂川清流センターのリン除去設備（山梨県大月市）

相模川の上流は山梨県にあり、ダム集水域のほとんどが山梨県内に広がっているため、相模川流域の水源環境を保全するためには、山梨県と共同して取組を進める必要があります。

県では、平成24年度から、山梨県と共同し、相模川上流域の森の手入れや、山梨県の下水処理場である桂川清流センターの処理水からダム湖のアオコの原因となるリンを取り除く対策に取り組んでいます。

かながわの森と水を守る県民参加の取組

県民の皆さんと一緒に、かながわの森と水を守る施策の立案、事業の実施、評価、見直しを行っています。

県民フォーラム

県民フォーラムの様子

県内の各地で開催し、かながわの森と水の現状や取組内容・成果をお知らせするとともに、対話を通して皆さんの意見をお聞きしています。

県民会議

県には、大学の先生や団体の代表、公募委員などからなる「水源環境保全・再生かながわ県民会議」が置かれています。

県民会議は、水源環境保全・再生施策に県民の皆さんの意見を反映するため、事業の実施状況を点検・評価し、その結果を分かりやすく情報提供する活動をしています。

リーフレットの発行

県民会議の様子

県民会議による事業モニター

もり・みず市民事業支援補助金

市民団体による森林整備

森の整備や川をきれいにする市民の活動を支援し、情報交換の場を提供しています。

森林づくりボランティア

ボランティアによる森林整備

森の中で、間伐や枝打ち作業を実際に体験し、森の手入れの大切さを体感していただくことができます。

問合せ先

（公財）かながわトラストみどり財団
電話 045-412-2255
ホームページ www.ktm.or.jp

水源環境を保全・再生するための11の取組

県では、水源環境を保全・再生するため、20年間の全体計画と5年ごとの実行計画を作って、11の取組（特別対策事業）を推進しています。5年間（令和4～令和8年度）の事業費は、11事業全体で約220億円（単年度平均44億円）です。

1. **水源の森林づくり事業の推進**
   水源地域の森を「緑のダム」にするために、間伐などの森の手入れをしています。（62億3,100万円）
2. **丹沢大山の保全・再生対策**
   丹沢大山地域などで、ブナ林再生の取組や、シカが増えすぎて下草を食べ尽くさないように管理捕獲をしています。（15億4,600万円）
3. **土壌保全対策の推進**
   低い丸太の柵を設置したり、石を詰めたかご枠を列状に並べたりして、森林の土壌が大雨などで流れてしまうのを防いでいます。（18億2,600万円）
4. **間伐材の搬出促進**
   森の手入れを進めるために、間伐した木の市場などへの運び出しを支援しています。（14億1,100万円）
5. **地域水源林整備の支援**
   地域の森と水を守るために、森の手入れを進める市町村の支援をしています。（33億3,300万円）

※（　）内は5年間の水源環境保全税充当額

6. **河川・水路における自然浄化対策の推進**
   地域の川を自然豊かにするために、水辺環境の整備に取り組む市町村を支援しています。（9億4,700万円）
7. **地下水保全対策の推進**
   地域の地下水を守るために、かん養や水質保全に取り組む市町村を支援しています。（5億7,700万円）
8. **生活排水処理施設の整備促進**
   ダム湖や川の水を汚さないよう、下水道整備や合併処理浄化槽の設置を進める市町村の取組を支援しています。（45億6,200万円）
9. **相模川水系上流域対策の推進**
   山梨県と共同して、山梨県内の相模川上流域で森の手入れや川をきれいにする対策をしています。（2億1,700万円）
10. **水環境モニタリングの実施**
    森や川の状況を調査して事業効果を測り、県民の皆さんに情報提供をしています。（10億9,500万円）
11. **県民参加による水源環境保全・再生のための仕組み**
    県民の皆さんの意志を反映しながら、かながわの森と水を守る施策の立案、事業の実施、評価、見直しを進めています。（2億800万円）